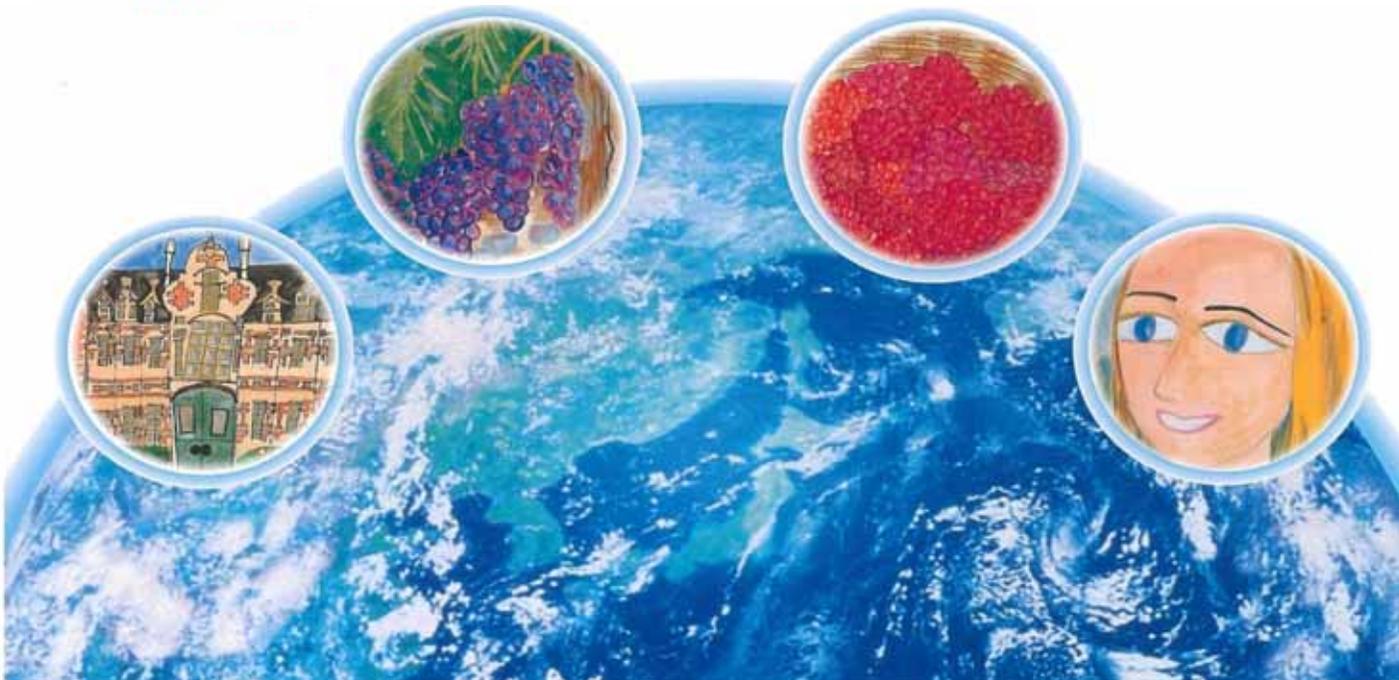


AIDS 2006



World Foundation Aids Research and Prevention
世界エイズ研究予防財団 日本事務所 通信





Messages from World Foundation

世界エイズ研究予防財団理事長 リュック・モンタニエ博士



世界エイズ研究予防財団は、ユネスコの協賛により設立され、発展途上国のエイズ患者への支援を中心に活動しています。私どもの日本事務所は予防教育に大変力を注いでおり、この活動が広がっていくことを心より希望しています。

Prof. Luc MONTAGNIER

HIV(エイズウイルス)発見者
フランス医学アカデミー会員
フランス化学研究センター研究部長
ルイ・パスツール研究所教授(～1997)
ニューヨーク大学クイーンズカレッジ
分子生物学センター教授兼部長(～2001)
世界エイズ研究予防財団理事長(1993～)

-受賞歴

CNRS 銀メダル
ガン医学ローゼン賞
レジオン・ドヌール・ナショナル勲章

1932年8月18日生まれ。パスツール研究所の共同研究者を率い、1983年、世界に先駆けて後天性免疫不全症候群(エイズ)の病原体であるヒト免疫不全症ウイルス(HIV)を発見し、HIV研究の糸口を開きました。1986年、モンタニエ博士のグループは、第2のエイズウイルス HIV を新たに発見。1991年には、彼の研究チームによってHIV感染者の体内でTリンパ球が消失するメカニズムがアポトーシス(プログラムされた細胞死)であることが突き止められました。

エイズの爆発的な増加を危惧したモンタニエ博士は、1993年に、当時ユネスコの総裁であったフェデリコ・マヨール氏と共に、パリのユネスコ本部に世界エイズ研究予防財団を設立しました。そしてエイズの被害の最も大きい地域であるアフリカに予防や治療の新たな発展の成果を導入するためコートジボアールの首都アビジャンにエイズ研究センターを開設しました。多くの診療所や病院が近年の状況に苦しみ中、センターにはますます多くの患者さんがつめかけています。また、カメルーン共和国のヤウンデに、財団による二番目のエイズ研究センターが平成18年2月23日新設されました。現在、モンタニエ博士は、高価でずっと服用が必要である現在のエイズ治療法に代わる免疫を高める食品と治療用ワクチンの開発に取り組んでおり、臨床試験に向けて日夜研究を続けています。

Foundation for Aids Research and Prevention

日本事務所代表 林 幸泰

最近の厚生労働省の発表によりますと、HIV感染報告の75%が二十代三十代の若者であり、又、約十年間 HIV感染を知らず、病気が発症し病院で初めてエイズだとわかるケースが増えています。日本は今もって唯一先進国G8の中で、HIV感染者・エイズ患者が毎年増加している国なのです。

HIVから身を守る最大のワクチン、それが予防教育です。子供は国の宝であるのに、現在、世界では一日に1400人以上の子供達がエイズで亡くなっています。(ユニセフ発表)

一人でも多くの子供たちを守れたらと、私は思っております。

(財)世界エイズ研究予防財団
日本事務所 代表
林 幸泰



世界エイズ研究予防財団 日本事務所は、山と緑に囲まれた自然の豊かな岐阜県揖斐郡大野町に1998年に設立されました。財団では「エイズの最良のワクチンは教育である」という考えに基づき、地元大野町を中心に、小中学校やPTA等のご理解のもと、対話を通じた



世界エイズ研究予防財団 日本事務所

草の根エイズ予防活動に努めております。又、地方レベルでのエイズ予防教育に加え、チャリティーコンサートの開催といった音楽とエイズ予防教育を組み合わせた独自の活動も展開しています。

スタッフ一同、ひとりでも多くの方が正しい知識を持ち、エイズにかからないよう、エイズ予防活動に努めて参りますので、今後とも暖かいご支援の程宜しくお願い申し上げます。



World Epidemic of Aids / HIV

HIV感染者推計総数 (2005年末現在 UNAIDS / WHO発表)

4030万人

現在エイズと共に生活している人 (生存中の感染者及び患者数)

総計	4030万人 (3670-4530万人)
うち成人	3800万人 (3450-4260万人)
うち女性	1750万人 (1620-1930万人)
うち 15歳以下の子供	230万人 (210-280万人)

昨年1年間の新規HIV感染者数

総計	490万人 (430-660万人)
うち成人	420万人 (360-580万人)
うち15歳以下の子供	70万人 (63万人-82万人)

昨年1年間で亡くなったエイズ患者数

総計	310万人 (280-360万人)
うち成人	260万人 (230-290万人)
うち15歳以下の子供	57万人 (51-67万人)

上記の数字は推計であり、得られる最良の情報に基づき実際の数字を誤差を考慮し決定されたものです。



HIV / エイズが世界の脅威と言われ始めてから20余年。この間、世界は「エイズ」を主に「おとなの問題」として捉え、対策や支援もおとなを中心に実施され、HIV / エイズによって直接・間接の影響を受けている「子どもたち」の問題には関心が寄せられませんでした。確かに、現在でもHIV感染者・エイズ患者の大半は成人ですが、エイズ関連の病気で死亡する6人に1人、そして、新たに感染する7人に1人は15歳未満の子どもたちなのです。

毎日、15歳未満の子ども1400人が、エイズに関係のある病気で命を失っています。

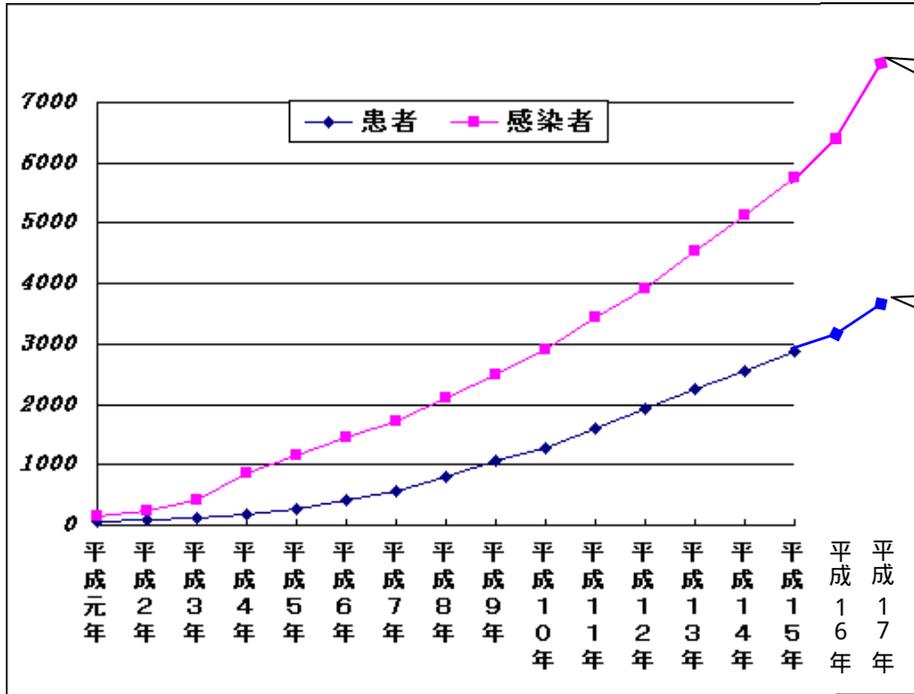
毎日、15歳から24歳までの6000人以上の若者が、新たにHIVに感染しています。

全世界で1500万人以上の子どもたちが、親(一方または両方)をエイズ関連の病気で失っています。

(ユニセフホームページより抜粋)

and Current Situation in Japan

日本のHIV感染者・AIDS患者報告数累計推移

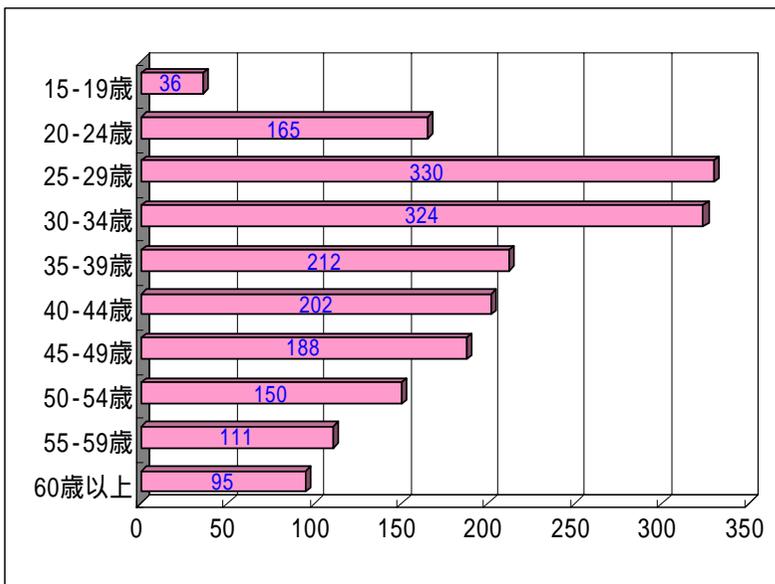


HIV感染者数
7338人

エイズ患者数
3623人

平成17年1年間の新規報告数は、HIV感染者・エイズ患者のいずれも過去最高となり年間報告数としては、感染者・患者あわせて1199件と昨年より34件増加し、昨年に引き続き1000件を突破しました。

日本国籍異性間HIV感染者の年齢別累計



左は、異性間の性的接触によりHIVに感染した日本人の累計数を年代別に表わしたグラフです。15-19歳では36人、20-24歳では165人、異性間の性的接触による感染が報告されており、若年層の感染が深刻化しています。また、性別構成は、他の年齢層ではほぼ8割を男性が占めているのに対し、15-19歳では72.2%、20-24歳では51.5%を女性が占めています。

Activity Reports April 2005 - March 2006

世界エイズ研究予防財団 日本事務所では、岐阜を中心にエイズ予防親御さんとのふれあいの場をもつことができました。講演会を企画

大野町立大野北小学校

養護教諭の小森先生より、一昨年、昨年に引き続き依頼を受け、今年で3回目のy m aホールでの講演会となりました。子供たちは、5年生、6年生の保健の授業で、エイズについての基礎知識や病気の予防全般を既習ということで、話の理解も早く、質疑応答にも非常に積極的に参加していました。本年度は、実施時期を早め、授業を受けた後の学習を深めたいとの希望で、例年より4ヶ月早く10月の講演会となりました。

TOPIC 1 子供たちからは 今年も様々な質問が飛び出しました！

どの講演会でも、そうですが、こども達は最初は緊張した面持ですが、授業がすすむにつれて、エイズが身近な問題であることに気づき、さまざまな質問を投げ掛けてくれます。

以下は、主な質問です。みなさんは答えられますか？

- ・HIVはどうやってできたのですか？
- ・HIVは目で見えるのですか？
- ・エイズ患者は薬とたくさんの水を飲むそうですが、どうしてですか？
- ・HIVに感染するとどんな症状がでますか？
- ・エイズはどれくらいの血液の量でうつりますか？ 蚊ではうつりますか？
- ・エイズ患者はどの年代の人が多いのですか？



講演会の様子と質問する子供たち

TOPIC 2 後輩たちへのリレー

北小学校の6年生は、授業を受けたあと、学んだこと感じたことを、来年6年生になる後輩たちへのメッセージとして、掲示板を作成しています。こうやって、エイズを学ぼうという意志が次の年へとしっかりとリレーされているのです。



保健室前に掲示されたメッセージ

TOPIC 3 11月の再来訪

10月に学んだ内容をより深く学びたい、もっと質問したいと思った3人の子供たちが、総合学習の時間を利用して養護教諭の小森先生と一緒に財団を再来訪してくれました。



左2人目から小森先生、林くん、長屋さん、江崎さん

～エイズ予防講演編～



防啓蒙活動を行っております。今年もたくさんの子供達、先生方、画・ご依頼くださいました皆様、ありがとうございました。

大野中学校総合学習

自分の興味をもった分野の施設等を訪問し学習を深める目的の総合学習を利用して、3年B組竹木さん、内藤さんの2名が当財団を訪れました。二人は、5月の「世界エイズ予防教育研修会議」に参加、モンタニエ博士らの話を聞き、興味を持ったとのことでした。

～以下は主な質疑応答の様子抜粋です～

エイズはどんな状態になるのですか？

「エイズ」の意味を理解していますか？との質問に答えにつまる二人。

まず、「HIV」「エイズ」「HIV感染者」「エイズ患者」の意味を理解してもらいました。

エイズ患者は、免疫がおちることにより様々な病気にかかること、その病気の総称を

「エイズ」ということを説明。免疫は身体を守るシステムで身体に備わっているもの、この病気については理解するには「免疫」について理解することが重要と説明。

エイズを治す薬はありますか？

HIVの増殖を抑える薬はあり、発症を遅らせることはできるが、HIVウイルスそのものを殺す薬は現在のところありません。

エイズになるとどれくらい生きることができますか？

それに関しては、はっきりとしたデータはないので、また調べておきます。

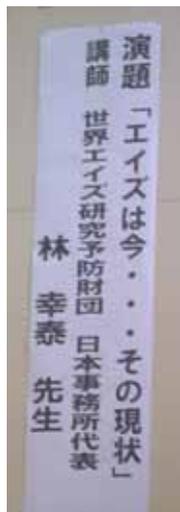
(参考)「わが国では平均して2～3年」という資料もありましたが、薬害エイズの裁判の資料として出されたデータであり、少し古いものであることもあり、はっきりとはわかりませんでした。国によってもずいぶんと異なります。結核の蔓延している国などでは、エイズの生存率は格段に低くなりますが、治療体制のととのったところでは、発病して5年以上生存する人が15%にものぼっています。



二人は、今回の訪問の結果を授業で発表するとのことでした。

本巣松陽高校

全校生徒約850人、先生も含めると900人以上の大規模な高校です。今までは、クラスに分かれてのホームルームにてプリントなどを利用して学習を進めてきたとのことでしたが、今年は全校そろって行いたいということで当財団に依頼があり、11月24日、全校一斉ホームルームの時間を用いての講演会が実現しました。



時間が通常より若干短い45分だったこと、高校生になると中学生よりややシャイになってしまうのか、質問はやや控えめでした。しかし、高額の治療費がかかるということや、発症するまでに長時間かかることが感染が拡大している原因になっていることなどが大きなインパクトとなったようで、実際に自分がHIVに感染してしまったらどうなるんだろう、実際の感染者に人はどうしているんだろう、といった疑問をもつきっかけになったようでした。後日、レポートおよび感想を送っていただいた中には、「いい緊張感をもって聞くことができた。エイズを社会問題としてだけでなく自分の問題としてとらえるいい機会だったと思う」といった感想もみられました。



Activity Reports April 2005 - March 2006



2005年5月19日、地元の大野町で開催中のイベント、インキュベートブリッジ2005 「ばら・ユーモアいきいきらんど」(愛・地球博パートナーシップ事業)の一環として、大野町教育委員会と世界エイズ研究予防財団日本事務所の共催で「世界エイズ予防教育研修会議」が開催されました。HIV発見者のモンタニエ博士、日本のエイズ疫学の第一人者である木原教授、ナイジェリア出身のオケジー博士の3人のスペシャリストを迎えてのこの会議に地元小中学生、県内教育関係者など約1000人が参加しました。

TOPIC 1

大野小の子供たちとの公開授業

「子供たちの生の声が聞きたい」とのモンタニエ博士の希望で大野町立大野小学校の6年3組30人との公開授業が行われました。ステージ上での授業は初の試みで、大勢の観客を目の前にして子供たちは最初は緊張していたものの、道具を使ってわかりやすく語りかける手法の授業形式に、次第にリラックスした様子で熱心に耳を傾けていました。



タンクに入った水を人間の免疫に例えエイズ発症の仕組みを説明する林代表

TOPIC 2

3人の専門家によるエイズ講演



まず、京都大学大学院木原教授、ロンドンサウスバンク大学オケジー博士が、それぞれの見地から「世界と日本のエイズの現状」、「アフリカの現状」についてスライドを使って最新の情報を講義され、参加者に知識を深めてもらいました。

続いてモンタニエ博士が講演を行い「現時点ではエイズを治す特效薬はなく、かからないようにすることが大切」と予防教育の大切さを訴えました。また、栄養面での治療策において「病気の進行を妨げるには、薬と食事、規則正しい生活」が重要であり、予防策としても日頃からの免疫力の強化をしておくことが重要だとのことでした。



TOPIC 3

大野中学校2・3年生、揖東中学校全校生徒が参加して質疑応答を行いました。

木原教授、オケジー博士、モンタニエ博士の講演終了後、大野中バンドによる生演奏が行われました。次にいよいよ本会議のメインである大野中、及び揖東中の生徒、大野小児童が質問し、3人の博士・教授が答える「パネルディスカッション・エイズ研究のトップにいっぱい聞いてみよう(Q & A)」の質疑応答へと移りました。世界的レベルで活躍するエイズエキスパートの先生に質問できる機会とあり、普段からエイズ教育を学校で受けている大野町の子どもたちからは、盛んに手が挙がり、マイクを向けられても臆することなく、次々と先生方に質問を投げ掛けました。「なぜ血液の中でしかエイズウイルスは生きられないのか」「中学生でもエイズになる可能性はあるのか」「国の人口の1%がHIVに感染すると国が滅ぶと聞いたが日本はどうか」「友達がもし感染してしまったらどう接すればいいのか」等の質問に、各先生がそれぞれの見地から丁寧に回答しました。質疑応答は1時間ほど続きました。会議の様子は、当日NHKニュースで放送され、また後日、岐阜新聞、中日新聞、朝日新聞の記事で紹介されました。



質問する中学生と会場の様子



会場からの質問に答えるモンタニエ博士(中央)ー岐阜新聞掲載写真ー

Activity Reports April 2005 - March 2006



7TH ICAAP IN KOBE

エイズ国際会議とは、エイズに関わっている世界中のNGO、当事者、研究者が集まって開催する会議です。今年、第7回目の、アジア・太平洋地域エイズ国際会議 (ICAAP: International Congress on AIDS in Asia and the Pacific) が、7月1日から5日にかけて神戸市で開催されました。日本で国際エイズ会議が開かれるのは、1994年の横浜会議以来、2回目です。「科学とコミュニティの英知の統合」というテーマで開催されたこの会議の展示会に当財団も出展してまいりました。その様子をレポートします。

TOPIC 1

市民ボランティア通訳 が会議を支え大活躍

60カ国以上からの参加があった今回の国際会議、外国人参加者のための通訳、道案内、介助などに、学生や市民のボランティアが500名以上活躍していました。街をあげて世界中から訪れる関係者を歓迎しようという温かい雰囲気を感じられました。



おそろいの帽子とTシャツで会場内に常駐するボランティアの人たち

TOPIC 2

薬害エイズ遺族による メモリアルキルト

展示会の一角には「薬害エイズ」被害者の遺族が亡くなった家族への思いを託したメモリアルキルトが展示されました。エイズへの偏見をなくし、二度と薬害が起こらないようにとの強いメッセージが込められていました。



展示会は7月3日(日)一般公開されました。

TOPIC 3

出展ブース総勢80以上！国際色豊かな展示会

世界エイズ研究予防財団日本事務所では、主に地元岐阜を中心として、小中学校のエイズ予防教育に注力していますが、今回は、10年以上ぶりに日本で開催されるエイズ国際会議とあり、世界のエイズ関連団体との交流、および財団の活動をより広く知っていただくため3日間の展示会に参加しました。



ブースを訪れる人と話をしていると感じたことは、エイズについての研究がいくら進んでも感染者の増大に歯止めが利かないのは、やはり教育が不十分であるからで、行政だけではなく民間での地道な啓蒙活動が不可欠であるのは多くの人が感じているにもかかわらず実際にはあまり実現されていないということです。海外の教育現場でも難しい状況であることもわかりました。当財団のユニークな活動、実際に行った小中学校での反応などは多くの人の関心を集め、協力の依頼や申し出を多数いただきました。今後も活動の場が広がるのが期待されます。



展示会会場の様子



TOPIC

昨年引き続き、岐阜放送「チャリティースペシャル2006」で財団の活動の様子が紹介されました！

2006年3月19日(日)、午後1時から3時、岐阜放送のチャリティースペシャル2006にて、当財団の活動が昨年に引き続き紹介され、財団代表林のインタビュー、2月23日(木)に行われた安八町学校保健会での講演の様子や参加された先生へのインタビューなどが事前収録のVTRにて紹介されました。

林代表は、インタビューの中で、エイズの感染経路は性感染・血液感染・母子感染の3つに限られており、日本において現在最も拡大が懸念されるのは性感染であること、エイズは予防できる病気であること、ひとりでも多くの若者に病気について知って自分の身を守ることで自分の大切な人や家族を守ることができると、正しい知識を必要な時期に伝える重要性を訴えました。



安八町学校保健会での講演



インタビュー収録の様子

TOPIC

岐阜新聞「素描」掲載

岐阜新聞の「素描」欄に、当財団の林幸泰代表が原稿執筆の依頼をいただきました。2006年9月1日から、10月27日の2ヶ月間、多忙な毎日の中、週1回、合計9回の原稿執筆は予想以上に大変なものでしたが、内容は、エイズの現況、モンタニエ博士との出会い、日本事務所設立のエピソード、エイズ予防教育への思いなど多岐に渡り、岐阜の皆様へ財団の活動を知ってもらうよい機会となりました。また、記事に共感された岐阜県ユネスコ協会の平井会長よりお手紙をいただき、ユネスコ協会会報2月号でも記事の抜粋が第一面にて紹介されました。



第1回目の記事(9月1日)



エイズについてこれ

HIVって何?

HIVとは、エイズの原因となるウイルス(病原体)で、

Human (ヒト)

Immunodeficiency (免疫不全)

Virus (ウイルス)

の略です。HIVに感染すると、HIVは一生その人の体に住み着き、ウイルスの増殖が免疫を担当しているリンパ球の一種であるCD4陽性細胞を減らしていきます。しかし、このウイルスは感染力の非常に弱いウイルスで、感染経路も限られています。

エイズ(AIDS)って何?

HIV感染後CD4陽性細胞が徐々に減っていき、最終的に免疫の力が破壊されると、悪性腫瘍、脳神経障害やカリニ肺炎などの感染症が出てきます。そのような症状を総称して、

Acquired (後天性)

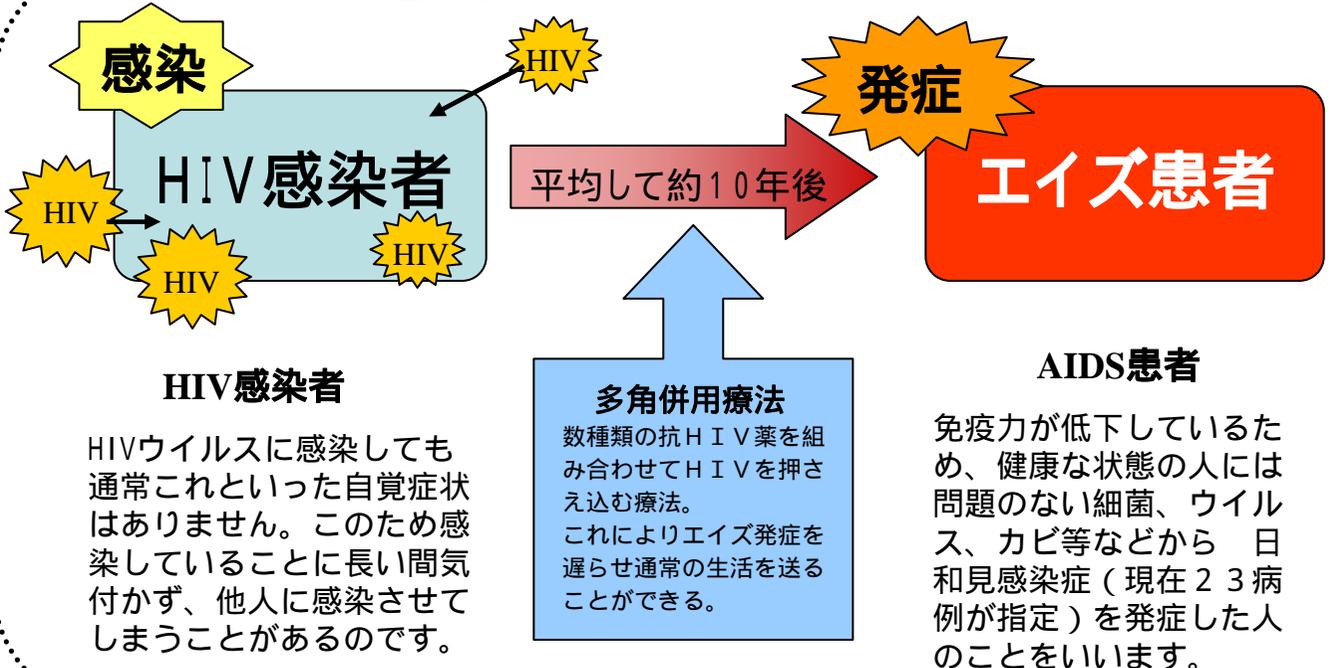
Immuno (免疫)

Deficiency (不全)

Syndrome (症候群)

と呼び、その頭文字をとってAIDSといえます。エイズはHIVによって引き起こされる病気の総称です。

HIV感染からAIDS発症まで



だけは知っておこう！

HIVの3つの感染経路



性行為による感染

相手がウイルスをもっている
と粘膜や傷口から

日本におけるHIV感染は
ほとんどが性感染です。



血液による感染

注射器の共有
(麻薬の回し打ちなど)



母子感染

妊娠中母体内で
出産、授乳時に

HIVは一般的に感染力の弱いウイルスです。職場、学校、家庭では、軽い接触による感染・空気感染の心配はありません。しかし、感染の危険性は誰にでもあるということをきちんと理解し、性行動について賢い選択(相手に不安を感じたら断る、感情に流されない等)を行い、**自分の身を守る**ことが重要です。

感染が心配な時は検査を受けよう

感染を早く知り、適切な医療を受ければエイズ発症を抑えることが可能となってきています。HIVに感染した可能性があると考えた場合は、抗体検査を受けるようにしましょう。

HIVに感染すると数週間で体内でウイルスが増えて血液中に現れます。その後、2～3週間ぐらいで抗体ができてはじめて、感染後抗体ができるまで通常6～8週間かかります。確実な結果を知るためには、抗体検査は感染したかなと思われる時期から3ヶ月ほど経ってから検査を受けましょう。

全国ほとんどすべての保健所や保険センターで無料で検査を受けることができます。

検査を受ける前に医師や看護師によるカウンセリングがあり、相談に乗ってもらえます。

住んでいる地域以外の保健所でも検査は可能です。

保健所の検査は匿名で行われますので個人のプライバシーは守られます。

保健所の検査はたいいてい週1回受け付けています。検査の日時を確かめておきましょう。

一般の病院や医院でも検査を受けることができます。この場合は有料(5千円～1万円程度)。

検査の結果が分かるのはたいいてい1週間後です。

結果をすぐ知りたい場合、試験的に30分で結果が判明する「即日検査」を行っている医療機関があります。結果が陰性であれば問題はありますが、もし陽性反応があらわれた時は確認検査を行う必要があり、最終的な結果が出るには数日間必要です。

[相談・検査・治療情報\(エイズ予防情報ネット\)](#)

http://api-net.jfap.or.jp/soudan/soudan_Frame.htm

[HIV検査・相談マップ](#) <http://www.hivkensa.com/index.html>

「即日30分検査」
についての情報も
載っています！

HIVの治療について

講演を聞いた生徒さんから治療費についての質問が多く寄せられました。

Q HIV感染症やエイズの治療に健康保険は使えるのですか？ 治療費はいくらぐらいかかりますか？何か助成等は受けられないのですか？

A HIV感染症の治療には健康保険を使うことができます。また、身体障害者手帳の交付を受ければ、医療費の助成を受けることができます。

高額療養費制度・所得保障制度

治療費はその人の身体の状態や治療方針などによって異なりますので、一概に数字を示すことは難しいですが、現在標準的な治療である抗HIV薬の多剤併用療法では、全額自己負担として、毎月15万～20万円程度かかると言われています。健康保険を使うと、国民健康保険も健康保険(被用者保険)も、共に3割の自己負担(3～69歳)となりますので、抗HIV薬だけで毎月数万円の費用がかかる計算となります。

実際は、これに再診料や定期的な血液検査などの諸検査料などが加わります。もし、ほかに何か予防しなければならない日和見感染症等があったり、治療を必要とする病気があれば、さらに費用はかかります。

ただ、一般の病気と同様、例えば高額療養費制度などの医療費助成制度や、傷病手当金や生活保護などの所得保障制度などを利用することが可能です。

身体障害者手帳の交付

HIV感染症は免疫機能障害として、身体障害者手帳の申請も可能です。身体障害者手帳の交付を受けると、心身障害者医療費助成や更生医療(原則1割負担)などの医療費の助成を受けたり、その他各種手当の給付や税金の軽減、公共料金の割引、運賃等の割引などのサービスを受けることができます。しかし、身体障害者手帳の等級や所得の制限を設けているものもあり、市町村によっても受けられるサービスに違いがあります。

抗ウイルス薬には大きく分けて3種類あります。

- ・ 逆転写酵素阻害薬 (AZT,ddl,ddC,d4T,3TC等)
- ・ プロテアーゼ阻害薬 (リトナビル、インディナビル、サキナビル、ネルフィナビル等)
- ・ 非核酸系逆転写酵素阻害薬 (ネビラピン、デラビルジン等)

また、これらの薬には様々な特徴があります。

- 1) 1日あたりの服用回数
(例: 2回、3回、8時間おき等)
- 2) 薬を飲むタイミング
(例: ddlは空腹時、インディナビルは食事1時間以上前で食後2時間以上)
- 3) 薬の保存の仕方
(例: リトナビルは冷蔵庫保存、インディナビルは湿気厳禁)
- 4) 薬の飲み方
(例: インディナビルは腎結石予防のため普段飲んでいる水に加えて1.5 の水が必要)
- 5) 今持っている感染症や疾患により併用を避けた方が良い薬がある
- 6) 薬の値段が高い

エイズの症状について

次いで多かったのは、症状についての質問です。

Q HIVに感染したらどのような症状がでますか？

A ほとんどの場合、感染初期には目立った症状はありません。しかし数週間以内に、熱、発疹、リンパ節の腫れ、疲労感などさまざまな症状が起こり、数週間続きます。その後、これらの症状は消えますが、リンパ節だけは腫れが続きます。感染した場合、症状がなくても、感染力は早い時期からあります。HIVに感染してからエイズを発症するまでには何年もかかり、10年以上たってから発症する人もいます。エイズを発症するまでは、まったく元気な人もいれば、リンパ節の腫れ、体重減少、疲労感、繰り返し起こる発熱、下痢、貧血、口の真菌感染症(鵝口瘡[がこうそう])など、種々の非特異的な症状が出る人もいます。エイズの主な症状は、HIVの感染によって起きる特定の**日和見感染症**や**癌**による症状です。HIVは**脳に直接感染**することもあり、記憶障害、脱力感、歩行困難、思考や集中が困難になる認知症が起こります。一部の人は、明らかな原因がなくても、エイズ羸瘦(るいそう)といって体重が著しく減少することがあり、おそらくHIVが直接関与しているものと思われます。エイズの人における羸瘦は、連続して感染症にかかったり、結核のような持続的な感染症を放置したりしていたときにも起こります。腎不全もHIVが直接原因となって起こりますが、白人より黒人に多い傾向があります。**カポジ肉腫**は皮膚に痛みのない赤紫色の隆起した斑点ができる癌で、多くのエイズ患者、特に男性同性愛者に多くみられます。免疫系の癌(リンパ腫、特に非ホジキンリンパ腫)も発症しますが、初めに脳に出現すると、錯乱、人格の変化、記憶障害が現れます。女性は子宮頸癌(しきゅうけいがん)、男性同性愛者は直腸癌にかかりやすくなります。エイズによる死亡は通常、羸瘦、認知症、日和見感染症、癌などの症状が重なったことが原因となって起こります。

エイズに伴う主な日和見感染症

- ・ **カンジダ食道炎** (嚥下痛、胸やけ)
- ・ **カリニ肺炎** (呼吸困難、せき、発熱)
- ・ **トキソプラズマ症** (頭痛、錯乱、傾眠、けいれん発作)
- ・ **結核** (発熱、寝汗、体重減少、胸痛)
- ・ **マイコバクテリウム アビウム複合体感染症** (発熱、体重減少、下痢、せき)
- ・ **クリプトスポリジウム症** (下痢、腹痛、体重減少)
- ・ **クリプトコッカス髄膜炎** (頭痛、発熱、錯乱)
- ・ **サイトメガロウイルス感染症** (眼では失明、腸管では下痢、体重減少)
- ・ **進行性多巣性白質脳症** (体の片側の脱力感、協調運動やバランスの喪失)

HIVは感染しても長期に渡り症状が出ないことが多いため、検査をしないとわからず自分でも気がつかない場合が多いのですね…。

レッドリボンが咲きました！

財団では、レッドリボンという名前の野ばらを大切に育てています。今年は5月に満開となりました。ベルベットのリボンを思わせる真紅の花びらは、見る人の心を癒してくれます。このレッドリボンを増やして、お世話になった学校へ配ろうと、財団のスタッフ一同希望に胸をふくらませています。お楽しみに待っててくださいね！



チャリティー御協力への御礼



レッドリボンバッジ・オリジナル絵葉書セット（各千円）

チャリティーグッズの販売の収益金、当財団の活動への協賛企業様や個人や学校、PTA様からの寄付金など、今年も皆様から暖かいご協力をいただき、スタッフ一同大変感謝しております。収益金および皆様の寄付金は、アフリカ、コートジボワールにあります当財団のアビジャンエイズ研究センター（1996年4月、コートジボワール政府とユネスコの協力を得て設立）へ治療・研究費として送金や配布用の小冊子購入に使わせていただいております。ありがとうございました。



アビジャンエイズ研究センター

*** 寄付金はこちらまで ***

口座名義：ユネスコ協賛（財）世界エイズ研究予防財団 日本事務所

銀行名：大垣共立銀行 本店 口座番号：普通 715083

ご存知ですか？
レッドリボンは
何を意味するの？



“レッドリボン（赤いリボン）”は、もともとヨーロッパに古くから伝承される風習のひとつで、病気や事故で人生を全うできなかった人々への追悼の気持ちを表すものでした。この“レッドリボン”がエイズのために使われ始めたのは、アメリカでエイズが社会的な問題となってきた1980年代の終わり頃でした。このころ、演劇や音楽などで活動するニューヨークのアーティスト達にもエイズが広がり、エイズに倒れて死んでいく人達が増えていきました。そうした仲間達にたいする追悼の気持ちとエイズに苦しむ人々への理解と支援の意思を示すために“赤いリボン”をシンボルにした運動が始まりました。この運動は、その考えに共感した人々によって国境を越えた世界的な運動として発展しています。当財団でも、チャリティーグッズとしてレッドリボンバッジを販売（¥1,000）しています。

きた1980年代の終わり頃でした。このころ、演劇や音楽などで活動するニューヨークのアーティスト達にもエイズが広がり、エイズに倒れて死んでいく人達が増えていきました。そうした仲間達にたいする追悼の気持ちとエイズに苦しむ人々への理解と支援の意思を示すために“赤いリボン”をシンボルにした運動が始まりました。この運動は、その考えに共感した人々によって国境を越えた世界的な運動として発展しています。当財団でも、チャリティーグッズとしてレッドリボンバッジを販売（¥1,000）しています。

世界エイズ研究予防財団 日本事務所

〒501-0501岐阜県揖斐郡大野町稲富1956 Tel: 0585-34-3850 Fax: 0585-34-3858
E-mail: wfarp@ori-japan.com Website :http://www.ori-japan.com 内

